

将来、地域医療を担う一員として、わたしは高校生のうちに地域医療について深く知るとともに、他のことについても視野を広げておきたい。そう考えるようになったきっかけは、新上五島町で唯一の病院である上五島病院の離島医療研修に参加したことだ。そこでわたしは、院長先生や医師の方々のお話を伺い、地域医療において重要な二つのことに気がついた。

まず一つ目は、地域の実情を詳しく知っておくことだ。新上五島町の 2020 年の高齢化率は 42.7% と、全国の高齢化率 28.7% を大きく上回っており、高齢者のための充実した医療体制が必須である。上五島病院では院内で介護士の方が働かれていたり、地形や人口分布を考慮した効率的な訪問診療が行われたりしている。また、上五島病院は離島にあるのでドクターヘリを利用して本土との連携もとられているようだ。

わたしは、地域医療における理想の病院とは、このように地域に密着し、住民のニーズに合わせた病院のことだと考える。つまり、地域の実情によって求められる病院のありかたは異なるのだ。そのため、地域の人口構成や地理などを詳しく知る必要があると思う。

もう一つは、医療についてはもちろん、その他のことについても幅広く知っておくことだ。特に僻地医療においては医師の数が少ないため、総合診療医として自分の専門の科を持ちながら他の科の診療も行う必要がある。上五島病院では外科医の方が自分で麻酔の勉強をし、手術の際に麻酔をすることがあるという。さらに、地域医療では多様な患者さん一人一人と緊密に関わるため、医療以外のことについても知識と経験が求められる。例えば、島には釣りを趣味とする患者さんが多く、それを会話のきっかけにするという医師の方もいらっしゃった。

わたしは、地域医療における理想の医療従事者とは、さまざまなことに興味を持ち、多くの人と関わり、自身が豊かな人生を送っている人だと思う。そのような人は、常に住民に頼られ、心の通ったコミュニケーションができるだろう。

わたしは、この研修に参加するまでは、貧困や紛争などが原因で医療が十分に届いていない地域の人々の命を救う医師になろうと思っており、離島医療についてはあまり詳しく知らなかった。しかし離島医療の現状を学ぶことで将来、地元の地域医療に貢献したいという思いも生まれた。研修に参加することによって地域医療への考えを深め、将来の新たな選択肢を得られたのだ。

今、わたしは患者さんの命を直接救うことはできないが、医療や自分の住む地域について調べたり医療に限らずさまざまな分野に挑戦したりすることはできる。わたしは将来、どの地域で医師として働くかはまだわからない。しかし、どこであってもその地域に寄り添った「理想の地域医療」を行える基盤をつくっておくために、高校生の今、深く、そして広く学ぼうと思う。